

暖城道中

龍草廬

雨歇む 京城数里の西  
行人一たび断えて 草萋萋

野鶯亦解す 春を尋めるの意を  
故に百花深き処に向かて啼く

【作者】 竜草廬（一七二四〜一七九二年）（正徳四年〜寛政四年）・江戸時代中期の儒者。山城（京都府）出身。本姓は武田。名は公美、元亮。

字（あざな）は君玉、子明。別号に鳳鳴、竹隱、松菊など。竜玉淵（ぎよくえん）の父。宇野明霞にまなび、京都でおしえる。漢詩結社「幽蘭社」を主宰し、社中の作品集「金蘭詩集」を刊行。寛延三年近江（おうみ）（滋賀県）彦根藩の儒官となる。寛政四年二月二日死去。七十九歳。著作に「草廬集」「典詮」など。